

## 第4回 武蔵野市保育料審議会 議事要録

1. 日程及び場所 平成24年10月3日(水)午後7時~9時  
武蔵野スイングホール11階 レインボーサロン
2. 出席者 委員11名、子ども家庭部長、保育課長、事務局8名  
委員 菊池会長、松本副会長、伊藤(寿)委員、小美濃委員、加藤委員、平川委員、  
井原委員、伊藤(優)委員、天野委員、松田委員、早川委員  
市・事務局 青木子ども家庭部長、平之内保育課長、  
川西、大淵、矢野、佐々木、山内、益守、長田、三上

### 3. 次第

#### 開会

### 4. 議事(以下、委員発言、事務局発言)

#### (1) 前回議事要録の確認

前回議事要録について、下線部分に修正があります。

ほかになければ、この内容で確定する。

#### (2) これまでの審議会を振り返って

資料の読み込み、審議の流れなどを確認し、共通認識したい。もう1度みてみて、ご指摘ご質問等いただきたい。

今後の考え方について、方向性を意思統一したい。審議会規則には「市長は保育料を改正しようとするときは、あらかじめ審議会の意見を聴く」となっている。保育料を上げるとも下げるとも書いていない。上げ下げの議論の前に、保育料を改正すべきなのかどうなのかの結論を先に出すのか、それとも上げるところもあれば下げるところもあるというような、全体を網羅しつつ審議していくのか。

審議会のたちあげは、改正することが前提なのではなく、改正すべきかどうかを審議するためと理解している。

多様な保育のありようがある。今なにが問われているのか。どこを起点として考えていくのか。単純に値上げ、値下げではなく、子育て環境を広くとらえて審議したい。

こども関連の法案が通り、新しい仕組みに変わっていくときに、保育そのものも変わってきている。保育料の改定審議もそれをふまえて考えないといけない。

待機児童がなくなることが第一。選べる状況ができてくれば、公平感が大事になってくる。

全体の保育の環境について、現時点でとらえられていること、新しい仕組みに向けた動きと保育料の絡みなど、どんな見方をしているか。

来週国の説明会がある。全ての保育ニーズに応じたサービスの供給がどこまでできるのか。

財源はどうするのか。見えないことも多くて具体的な構想はしえないのが現状。

国の姿勢が定まっていないが、それとは別に、武蔵野市の路線としてはこうするというの

が答申出せるとよい。

年収が同じでも課税所得の違いで保育料がかわってくる。課税所得と保育料のグラフはあるか。

課税所得のグラフはないが、実際の計算に使う所得税額と保育料とのグラフ（資料 13）、世帯年収と連動したグラフ（資料 37）がある。

認可と認可外で教えていただきたい。

私立で施設や人員配置を充実させて、保育料が高くなることがある、ときく。

同じようなことが、あるか。また需要があるのか。

保育活動の調査を兼ねて講座をひらいた。関心が高く、貴重な情報交換になった。

印象として、幼稚園は選択するのに時間がかげられる、保育園はとにかく入りたい、というところがある。選択の幅がひろがり、選べる状況になってきた中で、いろいろな形態のサービスも選ばれるようにしたい。

幼稚園の保育料について資料( 15 - 2 )、保育料はかなり高くすると東京都から注意が入る。また、保護者は若年層で年収も少ないので良い保育をして保育料を高くするのは一般の園では考えにくい。

保育のガイドラインがあるので総合的な質はそろっている。認証は特色を出している。

選択が複雑化し、また、補助金がからむと、高いはずの保育料の方が安くなるなどの逆転現象がおこる。

保育料が負担にならないよう、若年層の保護者の軽減など考慮してほしいと、東京都などに要望している。

たとえば認可の徴収基準が安いから、もう少し高くしてくれと認可外がいうことはあるか。

市の財政の安定のはかられる基準でやるべき。その中で困窮者の軽減がはかられたい。

保育料のバランスを考えて、直接の利用者からたくさんとるとか、子育てが終わった世代がどう支えるかとか、市としてどう補助していくのかとか、子育て環境を広くとらえることが必要だろう。

所得の有無の二極化が激しくなっている。生活保護世帯も増えてきていて、その中でも所得に差が出ている。その点も考慮して保育料を設定する必要がある。ただ、低所得世帯であっても、たとえば食事はしなければいけないわけで、昼食代程度は徴収すべきではないか。学校給食代が無料の低所得世帯との整合性が必要になるが。また前回の保育料改定からかなり時間が経ち、その間国の税制改正などもあるので、その経過をふまえた対応が必要ではないか。

認可が値上げをすると、認可外へ出ている補助金にどう影響するのか気になる。

とにかく保育園に入るのは大変。同じような条件でも入れる人入れない人がいる。どこでも入れれば良いと考えてしまう状態。高く払っても預けたいと思ってもできず、常勤で働きたくてもできず、また理屈では割り切れないような理由で入れなかったりなど、いろいろなケースがある。社会情勢、女性の雇用機会の移り変わりなど、いろいろな立場で待っている人がいて、待機児童はますます増える一方である。全ての人が納得するのは難しいだろうが、ある程度協力しあえる、認め合えるところでまとめられればと思う。

直接の利用者が払うだけでは、払えない人がでてくるだろう。また、生活に余裕のある方

もあるだろう。市税投入よりも余裕のある方は高く負担していただいて、低所得層をカバーするとか、負担のバランスを考えたい。

武蔵野市の保育をどうするか、保育料を切り口に考えるのが会の主旨であると確認。審議会としての方向を議会に示す根拠をどうもってくるか。それは審議会内で合意がとれていること、市民の方に対して、議会に対して説明ができることが必要。質の向上にはお金がかかる。誰が負担するか。市の財政は限られている。このデータがあってもいい。長期計画を見ると明らか。たとえば学校の老朽化、高齢者の増加、生活保護の増加など、お金のかかることが多い。市が負担するのか保護者が払うのか。どちらかではなく、負担のバランスが必要。何を根拠に、どのデータをもちいて、議論をすすめればよいか。

個人の負担が、入る施設によって違うのを是正しつつ、公平感が見つけ出せれば、納得できるのではないか。

保育の質だが、前回の議論ででた質とは武蔵野市は他市と比べて人的配置が多いということであり、質を語る中では断片的な部分で話だった。先ほどのご質問の質の中身だが、質が良ければ高い保育料を払ってでも、ということ言えば英語を教える欲しいといった声があるが、最終的には無くなっていく。幼児教育でも保育でも、先ずは子ども自身がそこに自分の居場所を見つけられるかどうかだと考える。自分を受け留めてくれる居場所と思えなければ何も始まらない。保育のガイドラインの話が出たが、特色は施設それぞれ工夫がある。しかし、共通していることがあり、それは子ども一人ひとりに最善の保育をするということ。子どもの数だけ保育があるということ。これは幼児教育でも同じではないのか。何かをやらせるのではなく、子ども自身の興味を引き出すことに力を注ぐのではないか。だから、幼稚園も保育園も人手が必要であり経験豊かな職員が必要となっているはず。しかも頭数だけいけば良いということではない。それを踏まえて考えた時、手厚い武蔵野市の職員配置を削減し、人件費を減らしてまで料金を安くするのはいかがなものかと考える。一方、市が払うか保護者が負担するかで考えれば料金の発生については行政と利用者両方のミックスになるだろうが、今以上に市民からの税金を子どもに充てられるとも合意を得られるとも思えない。子どもを取り巻く環境は保護者のみならず、市民全体で考えていけるようになりたいが、働く時間の長さや育児時差の少なさをみても、この国としての成熟には到達できていない。となれば、利用者負担は一定程度必要だろう。だが、低所得者には配慮が欲しい。再三議論が上がっている保育料階層の真ん中あたりの人たちへの配慮も必要。累進課税のように高所得の方ほど出していただきたい。そして、仮に保育料があがった場合、得た保育料をどう振り分けるか、も考えないといけない。

前回の改定時に所得の階層に応じて保育料がどう変化したか、比較したい。

働かなければならない経済状況の中で、教育費を払うためにさらに働かなければならなくなるのでは本末転倒。良質な教育環境のためにどんな工夫ができるか。

応益負担、応能負担になっているか、整理したい。

保育の質の議論をふまえつつ、具体的提案を打ち出す時期にきている。子育て環境の改善のためにも、まずは待機児童の解消に何ができるか。国の財政のおかれている状況も深刻である。

認可と認可外には財源構造に違いがある。利用者もさまざまである。皆がある程度は満足

できるような仕組みを作っていかなければいけない。

認可、認可外など施設のほかに、多様な形態で使いやすい仕組みをつくることも考えられる。

すべての武蔵野のこどものため、の視点を大事にしたい。

応益原則、応能原則のバランスを次回は考えたい。また、保育料に焦点をあて、一步進んだ具体的な議論ですすめていきたい。

「市民の意見を聞く会」の具体的なタイムスケジュールについて事務局案を次回出させていただきます。

以 上 (21:00 終了)